

**教育委員会の事務の管理及び
執行状況に関する点検・評価報告書
(令和2年度対象)**

**令和3年9月
新潟市教育委員会**

本報告書は、効果的な教育行政の推進に資するとともに市民への説明責任を果たしていくために、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教育法」という。）第26条の規定に基づき令和2年度の教育委員会の事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果をまとめたものです。

— 目次 —

I 教育委員会の活動状況について

- 1 教育委員会会議の開催状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 2 教育委員会会議以外の教育委員の活動状況・・・・・・・・・・3
- 3 令和2年度の主な取組と成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

II 新潟市教育ビジョンの施策評価について

- 1 令和2年度進捗状況最終評価施策一覧・・・・・・・・・・・・11
- 2 主な施策・事業の評価状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
- 3 教育ビジョン推進委員からの主な質問・意見・要望と教育委員会の対応
・・・・・・・・・・・・21

参考資料 新潟市教育ビジョン推進委員会令和2年度進捗状況評価経過

新潟市教育ビジョン推進委員会（第8期）委員名簿

・・・・・・・・・・25

【参考】

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

I 教育委員会の活動状況について

1 教育委員会会議の開催状況

○新潟市教育委員会定例会・臨時会

4月臨時会 報告案件のみ（新潟市立学校園の再開状況及び社会教育施設の対応状況等について）

4月定例会 議案第 1号 第34期新潟市社会教育委員の委嘱について

議案第 2号 第25期新潟市文化財保護審議会委員の委嘱について

議案第 3号 2021年度使用新潟市立小学校用教科用図書採択に関する
基本方針について

議案第 4号 2021年度使用新潟市立中学校用教科用図書採択に関する
基本方針について

議案第 5号 2021年度使用新潟市立高志中等教育学校前期課程用教科用図書採択に
関する基本方針について

議案第 6号 2021年度使用新潟市立特別支援学校・特別支援学級用教科用図書採択に
関する基本方針について

議案第 7号 2021年度使用新潟市立高等学校用教科用図書採択に関する
基本方針について

議案第 8号 2021年度使用新潟市立高志中等教育学校後期課程用教科用図書採択に
関する基本方針について

議案第 9号 新潟市学齢児童生徒の就学に関する規則の一部改正について

議案第10号 緊急事態宣言の対象地域拡大における市立学校園の対応について

5月臨時会 議案第11号 緊急事態宣言解除に伴う新潟市立学校園の再開について

5月定例会 議案第12号 令和2年6月議会定例会の議案について

6月定例会 議案第13号 通学区域の一部変更について

議案第14号 教職員の人事措置について

7月定例会 議案第15号 令和3年度使用新潟市立中学校用教科用図書の採択について

議案第16号 令和3年度使用新潟市立高志中等教育学校前期課程用教科用図書の
採択について

議案第17号 令和3年度使用新潟市立特別支援学校・特別支援学級用教科用図書の
採択について

議案第18号 新潟市長から委任を受けた新潟市芸術創造村・国際青少年センターの
管理に関する規則の一部改正について

議案第19号 新潟市立学校管理運営に関する規則の一部改正について

議案第20号 新潟市公民館条例施行規則の一部改正について

議案第21号 市立学校長の人事について

8月定例会	議案第22号	令和3年度使用新潟市立高等学校用教科用図書の採択について
	議案第23号	令和3年度使用新潟市立高志中等教育学校後期課程用教科用図書の採択について
	議案第24号	令和2年9月議会定例会の議案について
	議案第25号	教育委員会の事務の管理及び執行状況に関する点検・評価報告書について
9月定例会	議案第26号	令和2年度新潟市教育委員会表彰被表彰者の選考について
	議案第27号	教職員の人事措置について
10月定例会	—	報告案件のみ
11月定例会	議案第28号	新潟市公民館条例施行規則の一部改正について
	議案第29号	新潟市教育委員会組織規則の一部改正について
	議案第30号	令和2年11月議会臨時会の議案について
	議案第31号	令和2年12月議会定例会の議案について
	議案第32号	教職員の人事措置について
12月定例会	議案第33号	新型コロナウイルスの感染が確認された場合の対応について
	議案第34号	訴訟について
1月定例会	—	報告案件のみ
2月定例会	議案第35号	新潟市教育ビジョン第4期実施計画 指標の一部変更について
	議案第36号	市立学校園の校園長の人事について
	議案第37号	教職員の人事措置について
	議案第38号	令和3年2月議会定例会の議案について
3月定例会	議案第39号	新潟市学齢児童生徒の就学に関する規則の一部改正について
	議案第40号	新潟市教育職員の勤務時間、休暇等に関する条例施行規則及び新潟市臨時教育職員に関する規則の一部改正について
	議案第41号	新潟市教育職員の特殊勤務手当支給条例施行規則の一部改正について
	議案第42号	新潟市長から委任を受けた新潟市芸術創造村・国際青少年センターの管理に関する規則の一部改正について
	議案第43号	教育財産の用途廃止について
	議案第44号	事務局及び機関の長の人事について
	議案第45号	市立学校園の校園長の人事について

○教育委員会会議の公開等に関すること

- ・会議について 原則公開（人事案件等非公開の場合あり）
- ・開催案内について ホームページ・市報にいがた等に掲載
- ・会議案件について ホームページで案件名を事前に公開
- ・会議録について 会議終了後，会議速報をホームページに掲載
会議録作成後，速やかに，ホームページに掲載及び
市政情報室において公開

- ・地教行法等に基づき，新潟市では教育委員会定例会を毎月開催するほか，必要に応じて臨時会を開催しており，令和2年度は14回の会議（定例会12回，臨時会2回）を開催しました。（付議事件45件，報告案件49件）
- ・重要な案件については，教育委員会定例会の付議事件とする前に協議会の場において事前協議を行い，十分な検討を重ねています。（協議会案件1件）

2 教育委員会会議以外の教育委員の活動状況

○意見交換会・懇談会

- 令和 2年12月～令和3年1月 区教育ミーティング
- 令和 2年 6月，令和3年3月 総合教育会議
- 令和 2年11月 社会教育委員との懇談会

○学校視察

- 令和 2年 9月～令和 3年 1月 地域連携事業（小学校8校，中学校7校）
- 令和 2年11月 GIGAスクール視察（小学校2校）
- 令和 3年 2月 コミュニティ・スクール視察（小学校2校，中学校2校）

3 令和2年度の主な取組と成果

新潟市教育ビジョン第4期実施計画は、令和2年度から令和6年度までの5か年を期間とし、「これからの社会をたくましく生き抜く力の育成」を中心的な考え方のテーマに、12の基本施策と34の施策、更に5つの視点からなる重点施策を位置付けました。

計画初年度となる令和2年度は、新型コロナウイルス感染症予防など、教育を取りまく環境の変化に適宜対応しながら各施策を推進し、全34施策のうち数値評価できるものが29施策あり、指標目標を上回って達成した「評価4」と、概ね達成した「評価3」は合計24施策で全体の82.7%となりました。

重点施策においては、全16施策のうち「評価4」と「評価3」となった施策は12施策で全体の75.1%となりました。

令和2年度の主な取組と成果は、次の通りです。

① 新型コロナウイルス感染症への対応

令和2年3月の全国一斉となる学校の臨時休業後、新年度の開始にあたっては「学校園再開に向けたガイドライン」を策定し、これに基づく感染症対策や教育活動を実施しました。

その後、緊急事態宣言の拡大により、4月中旬以降、再度臨時休業としましたが、分散登校を経て6月1日に学校園を再開しました。

再開にあたっては、学習の遅れを回復するために、長期休業の短縮や学校行事の精選などにより授業時数を確保したほか、子どもたちが安心して学校生活を送ることができるようガイドラインを改訂するとともに「心のケアハンドブック」を作成し、感染予防の徹底や子どもたちの心身のケアに努めました。

また、国の補正予算を活用し、加配教員の配置や空き教室などの活用による少人数学級編成を行ったほか、個別指導や授業補助を行うために学習指導員を配置しました。あわせて、感染症対策などにより負担が大きくなった教職員を補助するため、スクール・サポート・スタッフを全小中学校に配置し、校内の消毒作業や授業準備を行いました。

さらに、「新しい生活様式」への対応として、マスク等の衛生用品購入相当額を就学援助に上乗せ支給したほか、修学旅行の追加費用やキャンセル料に対する支援を行い保護者の経済的負担軽減を図りました。

これらの取組により、学校園内での感染拡大を防止し、児童生徒の就学機会を保障することができました。

社会教育施設においては4月の緊急事態宣言の拡大に伴い、5月中旬まで一斉臨時休館としましたが、宣言解除後は、「新しい生活様式に基づく新潟市社会教育施設等利用ガイドライン」を策定し、館内放送などによる広報や新たにオンライン講座を実施するなど感染拡大防止と生涯学習活動の両立を進めました。

② G I G Aスクール構想の推進

G I G Aスクール構想の実現に向け、すべての市立学校において校内LAN設備の整備を進め、校内通信ネットワークを構築するとともに、緊急時などにも学びを保障できる環境を実現するため、当初の予定を前倒し小学校1年生から中学校3年生のすべての児童生徒、1人1台の端末を整備しました。

あわせて、大型掲示装置や障がいのある児童生徒のための音声読み上げソフトなどの整備、院内学級への学習端末とWi-Fiルータの設置など、ICT環境の整備を進めましたが、インターネットの利用環境に課題があることから、令和3年度中に改善する予定としています。

教職員に対しては、G I G Aスクール構想の基本的な考え方の理解やスキルアップを図るための研修を実施したほか、全教職員が共通認識を持ち授業に臨めるようG I G Aスクール構想推進ガイドラインを作成しました。

また、G I G Aスクールサポーターを配置し、学習端末の基本設定や授業支援を行ったほか、ヘルプデスクやサポートのための専用WEBサイトの立ち上げなどにより、学校間の取組の格差をなくすよう努めました。

③ 基礎・基本を身に付ける教育の推進

新型コロナウイルス感染症の影響により、各事業の開始時期が遅くなったり、学習ボランティアの派遣人数が減少したりしましたが、中学校の放課後の時間を活用したアフタースクール学習支援事業などの学習環境の整備や指導主事による教員への指導・支援など、児童生徒一人一人の主体的に学ぶ意欲・態度の育成や学力実態の的確な把握ときめ細かな指導に努めました。

これらの取組により、標準学力検査では、中2の英語と理科で全国平均以上となりました。

今後は、タブレット端末のより有効な利活用を研究するなどし、基礎・基本を身に付ける教育を一層推進していきます。

④ 体力づくりの推進

学習指導要領の改訂を受け、体育の授業では、ゲーム性のある運動を取り入れたり、事前に見通しを持てるようにするなど、運動が苦手な児童生徒も運動の楽しさを実感し意欲をもてるように指導を工夫したことにより、意識調査では体を動かした遊びや運動・スポーツの習慣についての問いに対して肯定的な回答をした割合が85.5%となり、高い水準を維持することができました。

一方、運動することを好まない子どもが少数ながらいることや、体力面では投力が苦手な子どもが多いことから、学校独自の取組も活用し、より一層の運動への意欲や体力の向上を図っていきます。

⑤ 一人一人の成長を促す生徒指導の推進

誰もが認められ、互いに助け合う学校の支持的風土の醸成を図り、児童生徒の自己肯定感を高める教育活動の実践・啓発に努めました。

いじめ・不登校対応では、「新潟市いじめ防止市民フォーラム」の実施や「いじめ・不登校初期対応ガイドブック」の活用のほか、「いじめ状況調査」を行うなどきめ細かに対応したことにより、いじめの解消率は前年と比べ向上するとともに、増加傾向にある不登校児童生徒の抑制につながりました。

一方、いじめの認知件数はこれまで同様に多く、対応に関する教職員の意識は高まっていることから、今後も教職員研修などを通して、いじめ認知の高い感度を保ちながらも、子どもの発達段階に応じた未然防止の取組を推進し、いじめ件数の減少につなげていきます。

⑥ コミュニティ・スクール（CS）の推進

「これからの社会をたくましく生き抜く力の育成」を目指した学校づくりを進めるため、モデル校として12校に学校運営協議会を設置し、保護者、地域、学校が一体となって子どもの成長を支える体制を築きました。

協議会では、教育活動の点検、評価に加え、保護者、地域の思いが反映された基本方針をすべての学校で練り上げるなど、これからの学習支援や子どもの地域貢献、安心安全な教育活動などについて、肯定的で未来志向の話し合いが行われたほか、子どもが主役になる地域の取組が新たに計画されるなど、保護者、地域、学校が一体となって、地域の未来を託せる子どもを育てる機運が高まりました。

一方、コミュニティ・スクールの認知度が高まっていないことから、令和4年度の全校導入に向け、円滑に協議会が設置できるよう市民への周知に努めます。

⑦ 地域と共にある学校づくりの推進

「地域と学校パートナーシップ事業」については、令和2年度から明鏡高等学校で実施したことにより、すべての市立学校での実施となりました。

学校の教育活動や地域と連携・協働した取組は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、延べ事業数は前年度比77%、学校支援ボランティアの延べ人数は前年度比87%となりましたが、当初の想定より減少幅は抑えられました。これは、学校と地域双方の「子どもたちのため、できることから取り組んでいこう」という姿勢を反映したものととらえています。

「子どもふれあいスクール事業」については、感染症対策に係る注意点などをまとめたガイドラインを作成したほか、各校で行われる運営委員会に、指導主事が参加し教職員・運営主任・スタッフとの話し合いを重ねてきたことにより、44校（実施校の65%）において、感染症対策の徹底を図りながら「ふれあいスクール」を再開することができました。

⑧ 一貫教育の推進

幼小接続推進協議会では、幼保こ小合同研修会を開催するとともに、アプローチ・カリキュラム推進のための「音声付きの動画プレゼンテーション」やスタート・カリキュラムの全市展開に向けた「スタカリ通信」を市内全園及び小学校へ発信し、新潟市共通幼小接続期カリキュラムの浸透を図りました。

今後は、園での学びと小学校での学びを幼保こ小職員が共有するため、互いの取組を見たり、目指す子どもの姿を話し合ったりする場を増やしていきます。

また、小中一貫教育では、新型コロナウイルス感染症の影響により、すべての中学校区で「目指す子どもの姿」を設定することができませんでしたが、各中学校区の取組について、さらなる活動の充実につながるよう、ホームページによる周知に努めました。

⑨ 教育関係職員の研修プログラムの充実

教職員の資質能力のより一層の向上を図るため、キャリアステージ研修・専門研修 56 講座を実施し、延べ 3,265 人が受講しました。特に、若手教員研修、中堅教諭等資質向上研修では、指導主事による丁寧なマンツーマン指導で受講者一人一人の授業力を高めました。

また、特別支援教育、いじめ・不登校、ICT活用など、喫緊の教育課題に対応した研修講座を実施し教職員の取組を支援しました。

新型コロナウイルス感染症対策としては、7月までの研修はすべて中止し、8月以降は日数短縮や内容の見直し、定員の削減、複数の研修室での分散開催、オンライン研修や資料配布など、計画を再編成し実施しました。

今後は、GIGAスクールなどの新たな教育課題への対応や、教職員の年齢分布の変化に対応した研修体系の確立について検討していきます。

⑩ 教育ネットワークの構築

教育委員会と各学校および各学校間を結ぶネットワーク(教育ネットワーク)を整備し、情報セキュリティの向上を図るとともに、校務を効率化し教職員の多忙化解消を目的とした統合型校務支援システムの構築を行いました。

今後は、教職員への研修などを通じて、システムの更なる活用を図ります。

⑪ 多忙化解消対策の推進と教職員のヘルスケア

第2次多忙化解消行動計画に基づき、学校閉庁日の設定やスクールロイヤ一、学校事務支援員、部活動指導員などの活用、夜間・休日の電話対応など、学校園と教育委員会、保護者・地域が一体となって教職員の長時間勤務の縮減を推進しました。

令和2年度は、学校事務支援員や部活動指導員の増員などもあり、月当たり平均時間外勤務が45時間を超える教職員の割合は26.3%となり、前年度から5.1ポイント減少しました。

一方、年間14日以上有給休暇を取得する教職員の割合が44.5%と、伸び悩んでいることから、夏季・冬季休業中の休暇取得促進日を増やすなど、これまで以上に年次有給休暇の取得しやすい環境を整えます。

また、教職員の健康状態を改善するため、管理職向けメンタルヘルス研修の開催のほか、保健師による高ストレス者への相談支援や病休者への復職支援に取り組んだことにより、令和元年度まで増加してきていた病休者数が令和元年度の125名から、令和2年度には119名に減少しました。精神疾患についても、令和元年度の60名から令和2年度には57名に減少しました。

⑫ 子育て支援

新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の講座を中止しましたが、オンライン講座の実施や「保育室運営ガイドライン」の作成など感染拡大防止に努めました。

子どもの成長各期に応じた子育てについての学習機会として、家庭教育学級を前年度から2講座増やし68講座開催したほか、土・日曜・祝日に26講座開催し、平日の講座参加が困難な方へ向け、学習機会を提供しました。また、親子が気軽に立ち寄り、仲間づくりができる居場所として子育てサロンを16の公民館で開設しました。

子育てに関する学習や、情報共有、意見交換を通じて受講者のネットワークづくりを支援することで、子育て中の保護者が抱える不安感や負担感の軽減を図りました。

今後も、より多くの学習機会が提供できるようオンライン講座などの自宅にしながら学習・交流を可能とする機会の充実を図ります。

⑬ 主体的な学習を支えるシステムづくり

より地域と学校がつながるよう生涯学習ボランティア育成講座の内容を見直し、生涯学習に関する豊かな知識や経験、優れた技術を教育活動や地域に生かしていただくとともに、地域人材の発掘にも努めました。

また、市民の多様なニーズや生活スタイルに応じるため「研修・講演・講師紹介ガイド」の作成や、にいがた市民大学における遠隔講義の実施、新型コロナウイルス感染症の対応として、ボランティアと協働してコロナ禍における活動のガイドラインを作成するなど、市民の主体的な学習活動を推進することができました。

⑭ 子ども読書活動推進計画と学校図書館支援センター事業

第三次計画（令和2～6年度）に基づき、図書館をはじめ、家庭、幼稚園・保育園・認定こども園、学校、地域において、子どもの読書環境の整備を進め、ブックスタート事業や家族と一緒に読書を楽しむ「うちどく」、子育て世代の図書館利用を促す「赤ちゃんタイム」「絵本なんでも相談タイム」の拡大など、読書活動の充実に取り組みました。

また、コロナ禍においても、感染症対策を徹底しながら読み聞かせや夏休みのイベントなどを開催し、安心・安全な図書館運営に努めました。

学校図書館支援センター事業では、学校への団体貸出や学校司書向けの研修などの活動が評価され、NPO法人知的資源イニシアティブが主催する「Library of the Year 2020」において特別賞を受賞することができました。

⑮ 全国高等学校総合体育大会（インターハイ）の開催準備

令和3年度全国高等学校総合体育大会（インターハイ）の新潟市開催に向け、令和2年6月に「令和3年度全国高等学校総合体育大会新潟市実行委員会」を設立し、バスケットボール女子競技、新体操競技の開催準備を進めました。

II 新潟市教育ビジョンの施策評価について

新潟市教育ビジョンの令和2年度の実施状況について、有識者の知見を活用した評価を以下に示します。

1 令和2年度進捗状況最終評価施策一覧

● 施策を構成する事業の進捗状況平均分布（全施策）

評価4 … 指標を達成した	44.8%	} 82.7%
評価3 … 指標を概ね達成した	37.9%	
評価2 … 指標を下回った	17.2%	
評価1 … 指標を大きく下回った	0.0%	

● 施策を構成する事業の進捗状況平均分布（視点1～5）

評価4 … 指標を達成した	31.3%	} 75.1%
評価3 … 指標を概ね達成した	43.8%	
評価2 … 指標を下回った	25.0%	
評価1 … 指標を大きく下回った	0.0%	

基本施策（12施策）	施策（34施策）			施策を構成する事業の進捗状況平均
	網掛…【視点1】～【視点5】に該当する施策			
1 確かな学力の向上	1-1	資質・能力を育む授業づくりの推進	【視点1】	3.2
	1-2	学び続ける資質・能力を育むキャリア教育の推進	【視点1】	3.5
	1-3	実感を伴って学ぶアグリ・スタディ・プログラムの推進		/
	1-4	読書活動の推進と新聞活用の充実		4.0
2 豊かな心と健やかな身体の育成	2-1	いのちの教育・心の教育の推進	【視点4】	3.8
	2-2	自立を促す生徒指導の推進	【視点4】	3.8
	2-3	体験活動の充実		4.0
	2-4	体づくりの推進		/
	2-5	健康づくり・食育の推進	【視点4】	2.7
	2-6	青少年の健全育成の推進		2.5
3 創造性に富み、世界と共に生きる力の育成	3-1	地域学習の充実		4.0
	3-2	外国語教育・国際理解教育の充実	【視点1】	4.0
	3-3	情報教育の充実とICTを活用した教育の推進	【視点1】	4.0
	3-4	社会の変化や新たな課題に対応できる教育の推進		4.0
	3-5	帰国・外国人園児児童生徒への教育の推進		3.0
4 共生社会の実現を目指すインクルーシブ教育システムの推進	4-1	子ども一人一人のニーズと課題に対応した特別支援教育の推進	【視点4】	3.7
5 校種間・学校間連携を生かした特色ある学校園づくり	5-1	就学前から義務教育修了までの一貫した教育の推進		4.0
6 人権を守り共に支え合う社会の推進	6-1	人権教育・同和教育の推進、男女平等教育の推進		3.7
7 家庭教育の充実と子育て支援	7-1	家庭教育・子育て支援の充実	【視点2】	4.0
	7-2	乳幼児期からの読書活動推進	【視点2】	4.0
8 人生100年時代を見据えた循環型生涯学習の推進	8-1	学び育つ各世代への支援	【視点2】	2.6
	8-2	学習成果を生かす活動への支援	【視点2】	3.7
9 地域と学校・社会教育施設が協働する教育の推進	9-1	地域と共にある学校づくりの推進	【視点3】	4.0
	9-2	広報広聴活動の推進		4.0
	9-3	地域人材や高等教育機関、企業等との連携の推進		3.5
10 学びのセーフティネットの構築に向けた取組の推進	10-1	保護者や地域と連携した安心安全な学校づくりの推進	【視点4】	2.5
	10-2	教育の機会均等を図るための取組の推進	【視点4】	/
11 学校教育・生涯学習環境の基盤づくり	11-1	学校施設の整備		4.0
	11-2	市民の多様な学習に応じた学習環境の整備	【視点4】	2.0
	11-3	学校適正配置に向けた取組		/
	11-4	市立幼稚園の再編に向けた取組		/
12 市民に信頼される教育関係職員の育成	12-1	教育関係職員の研修プログラムの充実	【視点5】	3.5
	12-2	教職員への支援体制の充実		3.0
	12-3	信頼される教職員の採用・登用・配置		4.0

2 主な施策・事業の評価状況

重点施策「視点1～視点5」に該当する施策を取り上げています。

1 確かな学力の向上

1-1 資質・能力を育む授業づくりの推進

事業の進捗平均
3.2

事業1 「主体的・対話的で深い学び」を視点とした教育活動の推進

指標1	研修会参加者の理解度(%)						R2進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		80	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	90	
進捗状況	-	77.6					
指標2	アンケートで「今後に生かすことができる」と回答した参加者の割合(%)						R2進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		80	前年度以上	前年度以上	前年度以上	90	
進捗状況	-	88.9					

事業2 アフタースクール学習支援事業

指標1	生徒アンケートで「参加してよかった」と回答した生徒の割合(%)						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		88	91	94	97	100	
進捗状況	86.8	88.2					

事業3 学習支援ボランティア派遣事業

指標1	学習支援ボランティアが派遣された学校で「児童生徒の基礎・基本の定着に効果的」と肯定的に回答した学校の割合(%)						R2進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		80	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	90	
進捗状況	-	99					
指標2	学習支援ボランティア派遣人数						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	1
指標目標		180	180	180	190	190	
進捗状況	175	114					

事業4 理科支援員派遣事業

指標1	配置校の理科授業における「授業への効果」に肯定的に回答した学校の割合(%)						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		100	100	100	100	100	
進捗状況	99.0	100					

事業5 家庭学習習慣の定着

指標1	新潟市生活・学習意識調査で、市の目安とする家庭学習時間(40分)を達成した児童(小4)の割合(%)						R2進捗評価
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	90.0	
進捗状況	87	81.6					
指標2	新潟市生活・学習意識調査で、市の目安とする家庭学習時間(60分)を達成した児童(小6)の割合(%)						R2進捗評価
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	2
指標目標		前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	80.0	
進捗状況	76	60.6					
指標3	新潟市生活・学習意識調査で、市の目安とする家庭学習時間(120分)を達成した生徒(中3)の割合(%)						R2進捗評価
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	50.0	
進捗状況	30	34.5					

<○:成果と課題／●:今後の方向性>

【視点1】

これからの社会で自信をもって自己実現している子どもを育てます。

○新学習指導要領の目指す教育活動の実現に向けて、主にICTの研修を通して、指導方法等を紹介することができた。

●学習過程の追究場面でタブレット端末を活用し、子どもが獲得した知識や学び方を表現する「アウトプット」を重視した授業への意識改革を進めるため、授業づくりリーフレット電子版(e-support)を活用しながら、各校の実態に応じた指導・支援を行う。

○コロナの影響があったものの、市内全中学校において、年間20回(数学10回、英語10回)程度の放課後学習教室を行い、生徒の肯定的な回答を得ることができた。

●今後は、学習支援員の研修会を充実させ、運営方法に工夫を凝らしていく。

○コロナ禍により、事業の開始が9月からとなったが、学びの保障緊急対応として、学生から学習指導員として対応に当たってもらった結果、学習支援ボランティアの派遣人数が大幅に減少した。

●効果が非常に高いものであったことが分かったため、来年度に向けて、学習支援ボランティアへの働き掛けを例年以上に行い、多くの学生に現場の経験を積ませるとともに、学校の負担軽減を達成できるようにする。

○理科支援員の配置により、観察、実験のある授業を、計画的に行うことができたことで、「観察、実験の回数」、「計画性」、「予備実験の有無」、「安全性」などの項目で、肯定的評価が得られた。

○調査において、「宿題をきちんとやっている」児童は、小4が94.8%、小6が92.6%、「宿題以外にも自主的に家で勉強している」児童は、小4が77.0%、小6が73.4%で、各学校での継続的な指導により学習習慣は定着している。

○小6は、小中学校の全学年中、最も電子ゲームをしている時間が長く、1日1時間以上ゲームをしている児童は、昨年度の43.3%から52.8%と急増し、学習時間に影響が出ている。

○中学校は、中3において、目安の時間以上に学習している生徒の割合が前年に比べて増えた。部活動や下校時刻の変更等により、家庭で過ごす時間が増加したことや、宿題や自主学習にしっかり取り組んだことが要因と考えられる。

●今後は、1人1台端末の持ち帰り等によって、授業での学びを振り返りやすくし、家庭における復習を充実させることで、授業につながる家庭学習を定着させたい。

事業6 学力実態調査の分析

指標1	全国学力・学習状況調査(小6国語)で、全国の平均正答率に対する新潟市の平均正答率の差(ポイント)						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	
指標目標		+5.2	+5.4	+5.6	+5.8	+6.0	
進捗状況	+5.0	—					
指標2	全国学力・学習状況調査(小6算数)で、全国の平均正答率に対する新潟市の平均正答率の差(ポイント)						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	
指標目標		+1.0	+1.4	+1.8	+2.4	+3.0	
進捗状況	+0.6	—					
指標3	全国学力・学習状況調査(中3国語)で、全国の平均正答率に対する新潟市の平均正答率の差(ポイント)						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	
指標目標		+2.0	+2.5	+3.0	+3.5	+4.0	
進捗状況	+1.6	—					
指標4	全国学力・学習状況調査(中3数学)で、全国の平均正答率に対する新潟市の平均正答率の差(ポイント)						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	
指標目標		+2.0	+2.5	+3.0	+3.5	+4.0	
進捗状況	+1.7	—					
指標5	全国学力・学習状況調査(中3英語)で、全国の平均正答率に対する新潟市の平均正答率の差(ポイント)						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	
指標目標				+3.0			
進捗状況	+0.3						
指標6	全国学力・学習状況調査(中3理科)で、全国の平均正答率に対する新潟市の平均正答率の差(ポイント)						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	
指標目標			+2.0			+3.0	
進捗状況	H30 +1.0						
指標7	全国学力・学習状況調査児童質問紙の質問項目「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」で、肯定的な回答をした児童(小6)の割合(%)						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	
指標目標		84.0	85.0	86.0	87.5	90.0	
進捗状況	84	—					
指標8	全国学力・学習状況調査生徒質問紙の質問項目「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」で、肯定的な回答をした生徒(中3)の割合(%)						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	
指標目標		83.0	84.0	85.0	87.0	90.0	
進捗状況	83	—					

○令和2年度は、全国学力・学習状況調査が実施されなかった。例年実施している中2を対象とした標準学力調査における平均正答率の差は、理科では+0.8、英語では+2.5であった。また、新潟市生活・学習意識調査における質問項目「学習や生活において、自分で考え課題を解決したり、自分で判断して行動している」において、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合は、小6は84.1%、中3は87.9%であった。単純に比較することはできないが、指標7・指標8と比較するならば、いずれも目標値を上回っている。

●令和2年度は感染症対策のため学校訪問を実施できなかったが、令和3年度は学校訪問の仕方を工夫して実施することにより、各校において組織的な授業改革が推進されるよう引き続き支援し、校長・教頭・研究主任に対し、授業改革マネジメント研修を通して、学校教育の重点について確実に定着させていく。

1-2 学び続ける資質・能力を育むキャリア教育の推進

事業の進捗平均	3.5
---------	-----

【視点1】
これからの社会で自信をもって自己実現していける子どもを育てます。

事業1 キャリア教育推進事業

指標1	全国学力・学習状況調査児童質問紙「将来の夢や目標を持っていますか」で肯定的に回答した児童(小6)の割合(%)						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		85	85	86	86	86	
進捗状況	84.9	77.5					
指標2	全国学力・学習状況調査生徒質問紙「将来の夢や目標を持っていますか」で肯定的に回答した生徒(中3)の割合(%)						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		72	72	73	73	74	
進捗状況	71.8	67.2					
指標3	キャリア・パスポート、キャリア・ノートを活用した取組を実施している学校の割合(%)						R2進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		95	前年度以上	前年度以上	前年度以上	100	
進捗状況	—	98.2					

○コロナ禍において、学校外の人とのかかわりが減ったことも影響し、指標1, 2が低下したと捉えているが、各校においてオンライン等での職業講話を実施するなど、工夫を凝らした取組を行うことができた。

○中学校にキャリア教育リーフレットを配付することによって、各校で職場体験等の取組を実施する際に活用することができた。

○高等学校では、様々な職業分野で活躍している方や大学関係者との交流、講話などを行うことによって、将来のライフワークを考えるきっかけになり、進路意識を醸成することができた。

○小、中、高等学校にキャリア・パスポートを配付することで、児童生徒が日々の活動を振り返って記録し、蓄積することができた。

●キャリアパスポートの効果的活用については、学校間で好事例を共有する場を設定していく。

事業2 市立高等学校・中等教育学校後期課程のキャリア教育推進事業

指標1	高等教育機関・産業界・地域の各機関と連携した教育活動によって、キャリア発達に資する思考力・判断力・表現力が育まれたと回答した生徒の割合(%)						R2進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		60	前年度以上	前年度以上	前年度以上	85	
進捗状況	—	93.0					

●新潟市高等学校等教育コンソーシアムの活用により、外部機関との連携を一層推進し、キャリア教育の充実を図る。また県外先進校視察又はICT活用により好事例に触れる機会を設け、学校全体のカリキュラムマネジメントの推進を図る。

2 豊かな心と健やかな身体の育成

2-1 いのちの教育・心の教育の推進

事業の進捗平均
3.8

【視点4】

誰もが安心して学べる環境づくりを進めます。

事業1 道徳教育の充実、福祉教育の充実

指標	新潟市生活・学習意識調査で、「自分にはよいところがあります」と回答した児童(小6)の割合(%)	R2進捗評価				
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6
指標目標		81	前年度以上	前年度以上	前年度以上	85
進捗状況	80	77.2				
指標2	新潟市生活・学習意識調査で、「自分にはよいところがあります」と回答した生徒(中3)の割合(%)	R2進捗評価				
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6
指標目標		75	前年度以上	前年度以上	前年度以上	85
進捗状況	74.4	77.3				
指標3	新潟市生活・学習意識調査で、「友達の良いところを見つけたり、友達が落ちこんでいるとき、はげましたりしています」と回答した児童(小6)の割合(%)	R2進捗評価				
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6
指標目標		90	前年度以上	前年度以上	前年度以上	95
進捗状況	89.9	90.1				
指標4	新潟市生活・学習意識調査で、「友達の良いところを見つけたり、友達が落ちこんでいるとき、はげましたりしています」と回答した生徒(中3)の割合(%)	R2進捗評価				
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6
指標目標		91	前年度以上	前年度以上	前年度以上	95
進捗状況	90.6	92.3				
指標5	全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙で、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した児童(小6)の割合(%)	R2進捗評価				
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6
指標目標		98	前年度以上	前年度以上	前年度以上	100
進捗状況	98.0	-				
指標6	全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙で、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した生徒(中3)の割合(%)	R2進捗評価				
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6
指標目標		97	前年度以上	前年度以上	前年度以上	100
進捗状況	96.1	-				

○各校で道徳の指導計画を見直し、計画的に道徳授業を行うことを通じて、自他のよさや互いに支え合い、共に生きることの大切さに気付かせることができた。

○新潟市生活・学習意識調査では、コロナ禍の中にあって「友達が落ちこんでいるとき、励ましている」項目が、小中とも伸びている。一方、「自分にはよいところがある」の項目が小6で前年度よりも落ち込んだ。コロナ禍で、体験的な学習や地域とかかわりのある授業が組みにくく、実感をもって自分の有用性に気付く活動が少なかったことが要因として考えられる。

●令和3年度からは、中学校も改訂された教科書が使用されるため、年度当初に、各校で各種計画の見直しを進める。また、いじめに正対した授業づくりを進めることで、いじめは、どんな理由があってもいけないという思いを限りなく100パーセントに近づけていく。

2-2 自立を促す生徒指導の推進

事業の進捗平均
3.8

【視点4】

誰もが安心して学べる環境づくりを進めます。

事業1 自律性と社会性を育む生徒指導の推進事業

指標	新潟市生活・学習意識調査の質問「地域の大人とあいさつしたり、言葉をかわしたりしています」の肯定的な回答の割合(%)	R2進捗評価				
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6
指標目標		86	86	87	87	88
進捗状況	85.2	86.0				
指標2	新潟市生活・学習意識調査の質問「学校生活は楽しい」の肯定的な回答の割合(%)	R2進捗評価				
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6
指標目標		92	92	93	93	94
進捗状況	91.3	91.6				
指標3	新潟市生活・学習意識調査の質問「友達の良いところを見つけたり、友達が落ちこんでいるとき、はげましたりしています」の肯定的な回答の割合(%)	R2進捗評価				
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6
指標目標		90	90	91	91	92
進捗状況	89.1	89.8				
指標4	新潟市生活・学習意識調査の質問「学校生活で、友達と力を合わせて学習したり、活動したりしています」の肯定的な回答の割合(%)	R2進捗評価				
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6
指標目標		92	92	93	93	94
進捗状況	91.9	92.6				
指標5	新潟市生活・学習意識調査の質問「地域の大人から話やアドバイスを聞いて、分かったり、できたりすることがよくあります」の肯定的な回答の割合(%)	R2進捗評価				
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6
指標目標		69	69	70	70	71
進捗状況	68.5	72.1				

○初任者から中堅職員まで、系統立てた研修を行い、それぞれのステージにおける生徒指導の理解を深めた。

○「新潟市の生徒指導」リーフレットの活用を進め、生徒指導の視点に基づいた授業と特別活動の実践を通じて、児童生徒の自律性と社会性の育成を図った。

●「新潟市の生徒指導」リーフレットを改訂し、学級が落ち着かないという現状改善に向け、ルールとリレーションのバランスを重視した生徒指導の推進を図る。

事業2 いじめ・不登校対応への支援カウンセラー等活用事業

指標1	いじめの解消率(%)						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		97	97	97	97	97	
進捗状況	95.6	97.2					
指標2	不登校傾向児童生徒の解消率(%) ←※指標変更(R3.2承認)						R2進捗評価
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	
進捗状況	27.9	51.0					
指標3	不登校児童生徒のうち学校内外の機関から相談・指導等を受けた割合(%) ←※指標変更(R3.2承認)						R2進捗評価
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	
進捗状況	63.0	57.0					
指標4	スクールカウンセラーが配置されたことで効果がみられたと回答した学校の割合(%)						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		100	100	100	100	100	
進捗状況	98.0	100					

※指標3の進捗状況の現状として示した63.0%の値は、適応指導教室や相談室登校、保健室登校の数を含めた「別室登校数」をカウントして数値化していたが、R2年度の調査の際に適応指導教室に通っている生徒の数を正確に把握することができないことがわかり、「別室登校数」を現状値から除いた場合、57.2%になる。

○いじめの解消率が前年度と比べ上昇しているのは、「いじめ初期対応ガイドブック」を適切に活用し、いじめの芽の小さいうちに解決できていくことが要因である。子どもの発達段階に応じたいじめの知識理解を徹底し、いじめの案件自体を軽減させていくことが今後の課題である。

○不登校傾向児童生徒の解消率が高くなった要因の1つとして、コロナ禍による長期の休校期間や分散登校等に伴う教育課程の変更によって、人とかかわりが少なく済むなどの環境の変化が生じたためと考えられる。

●「不登校初期対応ガイドブック」にもとづいた初期対応の一層の充実を図る。また、単に学校復帰だけを目標とせず、児童生徒の社会的自立を目指して、広く外部機関とかかわりをもたせるための支援を進めていく。

●いじめの未然防止のための道徳・特別活動プロジェクトチームを立ち上げ、授業の事例集を作成し、全市の小中学校に配付した上で、授業に活用できるようにする。

2-5 健康づくり・食育の推進

事業の進捗平均	2.7
---------	-----

【視点4】
誰もが安心して学べる環境づくりを進めます。

事業1 児童生徒の生活習慣病予防対策事業

指標1	肥満傾向の児童生徒の割合(%) ※減少指標目標						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	2
指標目標		7.32	7.32	7.32	7.01	7.01	
進捗状況	7.32	8.08					
指標2	痩身傾向の児童生徒の割合(%) ※減少指標目標						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		2.43	2.43	2.43	2.41	2.41	
進捗状況	2.43	2.58					

○新型コロナウイルス感染症の影響により、生活習慣病健診について中止としたが、予防啓発リーフレットを配付し、肥満・痩身の予防対策の事業を継続して実施した。

●肥満、痩身傾向の割合が増加していることから、運動不足や栄養摂取の偏り、不規則な生活などによる生活習慣病を防ぐため、引き続き、早期からの啓発活動や、よりよい生活習慣を身につける機会となる生活習慣病健診を実施する。

事業2 児童生徒のむし歯・歯周疾患予防対策事業

指標1	中学1年生一人平均むし歯(う歯)本数 ※減少指標目標						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		0.37	0.36	0.35	0.34	0.33	
進捗状況	0.38	0.32					

○フッ化物洗口について、取組開始以来、毎年10校園ずつ拡大し、令和2年度には、小学校では全校で実施する態勢を整えたが、一部の学校では、新型コロナウイルスの感染状況を考慮し実施を見送った。

事業3 食育推進事業

指標1	食育指導者の派遣校数						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	2
指標目標		8	21	23	25	27	
進捗状況	16	6					
指標2	児童生徒の朝食欠食率(%) ※減少指標目標						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		1.90	1.85	1.80	1.75	1.70	
進捗状況	1.93	2.01					

○新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインを活用し、取組事例についての研修会や報告、フォーラムを行うなどして、市内全校で食育研究推進校の取組を共有した。

●令和3、4年度の食育研究推進校の取組を市内全校で共有し、学校・家庭・地域が連携した取組を広げるほか、スクールランチ実施校を中心に、食育指導者を派遣して、食事の大切さやバランスのとれた食事のあり方などについて指導を行うなどして、食育を推進する。

事業4 学校給食の充実

指標1	地場産農林水産物の使用率(%)						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	2
指標目標		17.0	17.1	17.2	17.3	17.4	
進捗状況	16.9	14.7					

○夏季の天候の影響から施設によっては安定して仕入れることができず、目標に届かなかった。

●庁内外の関係者との連携協力のもと、給食食材としての安定供給につながる関係づくりを強化し、地場産農林水産物の使用の拡大に努め

3 創造性に富み、世界と共に生きる力の育成

3-2 外国語教育・国際理解教育の充実

事業の進捗平均
4.0

【視点1】

これからの社会で自信をもって自己実現していける子どもを育てます。

事業1 外国語指導助手(ALT)配置事業

指標1	イングリッシュセミナー参加生徒の振り返りにおける満足度(%)						R2進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	
指標目標	アンケート実施指標設定※	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	90		
進捗状況	-	-					
指標2	市雇用ALT受入報告書における学校の満足度(%)						R2進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		70	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	80	
進捗状況	-	75					

○イングリッシュセミナーが中止となり、アンケートが実施できなかったが、新学習指導要領の趣旨とともに、指導と評価の一体化に係る情報をALTと共有することで、ALTが学校を訪問する際に、アシスタントとしてサポートしたり、アドバイスをしたりすることができた。

●児童生徒が英語を使う機会を増やすために、外国語担当教諭とALTが参加する研修などにおいて、意見共有できる場を設定するなど、連携を密にする必要がある。

事業2 国際交流推進事業

指標1	海外訪問に参加した児童生徒のうち、「訪問の経験を今後に生かすことができる」と回答した割合(%)						R2進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	
指標目標		80	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	100	
進捗状況	-	-					
指標2	国際子どもフォーラムに参加した児童生徒のうち、「今後も諸外国の人々と積極的にかわり合いたい」と回答した割合(%)						R2進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	
指標目標		80	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	100	
進捗状況	-	-					

○新型コロナウイルス感染症の影響で、相互の訪問交流が中止となったため、評価できない状況であったが、オンラインによる相互交流を試験的に行うことができた。オンラインの交流により、さらに交流国を増やし、活発な国際交流ができるようになった。

●今後も相互の訪問交流は難しいため、今回の成果を基に、新しい形の交流事業を検討していく。

事業3 外国語教育支援事業

指標1	各種研修(外国語教育マネジメント研修等)における参加者の満足度(%)						R2進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		70	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	85	
進捗状況	-	85.0					
指標2	児童の外国語の学習が分かるという肯定的評価の割合(%)						R2進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		70	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	80	
進捗状況	-	84.2					
指標3	生徒の外国語の学習が分かるという肯定的評価の割合(%)						R2進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		70	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	80	
進捗状況	-	78.6					

○令和2年度より、小学校5、6年生において、外国語が教科化され、パフォーマンステスト等による総括的評価を実施することとなったが、「指導と評価の一体化に係る総括的評価の計画」に係る本市のプランを発出したことで、大きな混乱がなく、実施することができた。今後は、各校の実態に合わせ、自校化することが求められる。

○中学校では、外国語教育マネジメント通信や研修会を通じて、授業におけるICTの有効な活用法等について情報共有を行い、教職員の授業力向上に努めた。令和3年度より新学習指導要領が全面実施され、指導内容が増えることから、「英語を用いて何ができるか」という視点から、CAN-DOリストを活用し単元を精選するなど、指導と評価の一体化が求められる。

●小・中の学校教育研究協議会と連携を図り、新学習指導要領の趣旨を踏まえた実践を好事例として、情報共有を図る。パフォーマンステスト等総括的評価に係る資料を共有するなど、外国語教員の負担を軽減し、指導と評価の一体化を推進していく。

事業の進捗平均
4.0

【視点1】

これからの社会で自信をもって自己実現している子どもを育てます。

事業1-① 学校教育情報化推進事業

指標1	新潟市学校教育情報化推進委員会(仮称)の活動						R2進捗評価
Ⅲ型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	
指標目標		組織立ち上げ計画作成	計画の周知浸透 環境整備	計画の周知浸透 環境整備	計画の周知浸透 環境整備	計画の周知浸透 環境整備	
進捗状況	-	組織立ち上げ					

○GIGAスクール構想の実現に向けて、教育委員会内の連携を図る組織を立ち上げ、構想のイメージを全体で共有するとともに、環境整備・初期設定における諸課題について各課が連携しながら解決することができた。

事業1-② タブレット等ICT活用に係る教職員研修

指標1	研修会アンケートで「今後、学んだことを使ってみたい」と回答した参加者の割合(%)						R2進捗評価
Ⅱ型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		82	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	90	
進捗状況	-	95					

○8月に全体研修会を実施したほか、毎月、教職員研修会をオンラインで実施した。2月に実施したパイロット校実践報告会では、具体的な取組内容について情報共有を図った。

事業1-③ プログラミング教育に係る教職員研修

指標1	研修会アンケートで「今後、学んだことを使ってみたい」と回答した参加者の割合(%)						R2進捗評価
Ⅱ型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	
指標目標		82	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	90	
進捗状況	-	-					

○小学校を中心に、使用教科用図書に沿った年間指導計画や実践事例を全校に提供したが、感染症対策のため、総合教育センターの研修会を実施することができなかった。今後、中学校においても、実践するための教材の整備と実践例などの情報共有を図っていく。

事業1-④ ICT機器を活用した学習活動の充実

指標1	「新潟市の学校教育」実践状況調査において、「児童生徒が情報活用能力を育むために、ICTを活用した授業を実践していますか」で肯定的な回答をした小中学校の割合(%)						R2進捗評価
Ⅰ型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		96	97	97	98	100	
進捗状況	95.7	98.8					
指標2	「新潟市の学校教育」実践状況調査において、「児童生徒の情報モラルが向上する授業を実践していますか」で肯定的な回答をした小中学校の割合(%)						R2進捗評価
Ⅰ型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		96	97	97	98	100	
進捗状況	95.7	97.6					
指標3	全国学力・学習状況調査児童質問紙の質問項目「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか」で、「週1回以上」と回答をした児童(小6)の割合(%)						R2進捗評価
Ⅱ型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	70	90	
進捗状況	22.9	42.9					
指標4	全国学力・学習状況調査児童質問紙の質問項目「1・2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか」で、「週1回以上」と回答をした生徒(中3)の割合(%)						R2進捗評価
Ⅱ型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	70	90	
進捗状況	22.3	27.4					

○「情報活用能力の育成」「情報モラルの向上」などについて、教職員の指導スキルを高めるために、定期的に研修会を実施した。

○「1人1台端末」等のICT機器の環境整備に努めるとともに、教職員の意識の醸成を図ったため、指標3・指標4がやや向上したと考えられる。

●今後、ICTを活用した協働型・双方向型の授業が実践されるよう、更なる学習環境の整備と教職員の意識の醸成のために関係課で連携して取り組んでいく。

4 共生社会の実現を目指すインクルーシブ教育システムの推進

4-1 子ども一人一人のニーズと課題に対応した特別支援教育の推進

事業の進捗平均
3.7

【視点4】

誰もが安心して学べる環境づくりを進めます。

事業2 特別支援教育サポートネットワーク事業

指標1	研修会参加者の理解度(%)						R2進捗評価
Ⅱ型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		85	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	90	
進捗状況	-	95					
指標2	アンケートで「今後に生かすことができる」と回答した参加者の割合(%)						R2進捗評価
Ⅱ型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		85	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	90	
進捗状況	-	97					

○新型コロナウイルス感染症の影響から1回目の研修を中止し、オンライン研修を2回実施した。オンライン開催による参加しやすさもあり、多くの職員の参加があった。研修内容も充実させることができた。

●令和3年度も、オンライン形式での研修を実施する。アンケートの研修希望の結果を踏まえ、就学トラブルへの備えや学びのユニバーサルデザイン(UDL)、支援の必要な児童生徒との適切なかわり方の研修とする。

事業3 早期からの就学支援推進事業

指標1	特別支援学級在籍児童の入学支援ファイル提出率(%)						R2進捗評価
Ⅰ型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		98	100	100	100	100	
進捗状況	97.0	94.8					

○春季就学相談会を中止としたが、各区の教育支援センターでの就学相談や、夏季相談会の相談枠を増やすことなどで対応した。入学支援ファイルについては、コロナ禍による休校期間があり、保護者面談の設定が困難なケースがあったものの、ファイルの重要性が就学前に浸透してきたことによって、提出率が大きく落ち込むことなく、新入学児童の支援をスタートすることができた。

7 家庭教育の充実と子育て支援

7-1 家庭教育・子育て支援の充実

事業の進捗平均
4.0

【視点2】

学びの循環による人づくり、地域づくりを進めます。

○多くの家庭教育学級が中止となったが、コロナ禍における「公民館講座の実施基準」、「保育室運営ガイドライン」を作成したことで、子育て各期の保護者へ学習機会を提供し、受講者の意識啓発に寄与することができた。また、コロナ禍においても児童生徒の保護者を対象とした家庭教育にかかわる講座等を実施し、普段、公民館へ足を運ぶことがない人たちへ、子育てについて考える機会を提供できた。

事業1	家庭教育振興事業						
指標1	家庭教育学級でのアンケートで「今後に生かすことができる」と回答した参加者の割合(%)						R2進捗評価
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	90	
進捗状況	84.4	91.1					
指標2	保護者を対象とした家庭教育にかかわる講座等を実施した小中学校の割合(%)						R2進捗評価
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		70	前年度以上	前年度以上	前年度以上	100	
進捗状況	93.8	71.2					

7-2 乳幼児期からの読書活動推進

事業の進捗平均
4.0

【視点2】

学びの循環による人づくり、地域づくりを進めます。

○コロナ禍において、健診時の読み聞かせを行わない代わりに、図書館での読み聞かせを案内し、親子で読み聞かせを体験する環境を維持し、親子のふれあいや読み聞かせの大切さを伝えることができた。

事業1	ブックスタート事業						
指標1	ブックスタートアンケートにおいて家庭で読み聞かせをしていると回答した割合(%)						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	
指標目標			83		85		
進捗状況	81.4						

○赤ちゃんタイムの実施館を拡大し、子育て世代に向けた環境づくりを推進することができた。また、「絵本なんでも相談タイム」の実施館を1館から7館に拡大し、家庭での読書を支援することができた。

●赤ちゃんタイムの実施館の拡大及び絵本相談タイムの実施館の拡大を図り、乳幼児を連れた保護者が利用しやすい環境づくりを推進する。

事業2	赤ちゃんタイム						
指標1	中央図書館及び各区中心図書館において週2回以上実施した館数						R2進捗評価
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		3館は週2回	前年度の実績を踏まえて毎年度設定	前年度の実績を踏まえて毎年度設定	前年度の実績を踏まえて毎年度設定	全7館で週2回以上実施	
進捗状況	2館は週2回(5館は週1回)	3館は週2回(4館は週1回)					

8 人生100年時代を見据えた循環型生涯学習の推進

8-1 学び育つ各世代への支援

事業の進捗平均
2.6

【視点2】

学びの循環による人づくり、地域づくりを進めます。

○新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた講座が開催できず、目標を達成することはできなかった。今後はあらゆる世代の市民の主体的な学習活動の場の一つとして、学びやすい環境づくりが求められる。

○自主グループ数は前期講座・後期セミナーが開催されなかったことや活動休止等が見受けられたグループもあったことから、目標を達成することができなかった。今後は、学んだ成果を教育活動や地域活動に生かせるよう、引き続き受講者の自主グループの活動実態を的確に把握しながら支援を行う必要がある。

事業1	にいがた市民大学開設事業						
指標1	受講者の満足度(前期・後期講座、特別講座)(%)						R2進捗評価
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	2
指標目標		前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	95	
進捗状況	89	75					
指標2	受講者主体による自主グループ数						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	2
指標目標		15	16	17	18	19	
進捗状況	14	11					

事業2 現代的課題を学ぶ公民館事業と学習成果を発表する場の提供

指標1	現代的課題を学ぶ講座等に参加した人の満足度(%)						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		95	95	95	95	95	
進捗状況	95	93.5					

○コロナ禍における「公民館講座の実施基準」を作成し、講座を実施した。感染拡大防止の一環で、文化祭や芸能祭等のイベントをはじめとした多くの講座が中止となったり、制約が課せられたりした。しかし、市内各公民館では169講座を実施し、全国的な課題や地域の課題についての意識啓発に寄与することができた。

事業3 子どもの読書環境整備事業

指標1	市立図書館の児童書貸出冊数						R2進捗評価
I型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	2
指標目標		前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	1,185,000	
進捗状況	1,160,205	957,839					

○子どもや親子を対象とした定例の読み聞かせや読書週間などを、感染症防止策を講じながら実施し、読書や図書館を利用する契機につなげることができた。また、子ども読書活動推進計画関係各課の研修を行い、課題や取組事例を共有することができた。

事業4 市民に身近な生活課題解決のための情報提供事業

指標1	情報提供を受けた人と講座に参加した人の満足度(%)						R2進捗評価
I型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標	前年度以上		前年度以上	前年度以上	前年度以上	90	
進捗状況	82	94					

○レファレンス満足度調査を実施し、情報提供を受けた人の高い満足度を得た。中でも「くらしの情報講座」と「ビジネス支援セミナー」は、コロナ禍でも関心が高いテーマであり、高い満足度を得ることができた。

8-2 学習成果を生かす活動への支援

事業の進捗平均	3.7
---------	-----

【視点2】

学びの循環による人づくり、地域づくりを進めます。

事業1 生涯学習ボランティア育成事業

指標1	生涯学習ボランティア登録者数						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標	前年度以上		前年度以上	前年度以上	前年度以上	90	
進捗状況	1,367	1,361					
指標2	生涯学習ボランティア活動件数						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標	前年度以上		前年度以上	前年度以上	前年度以上	90	
進捗状況	550	1,082					

○概ね目標を達成したが、今後も循環型生涯学習を推進する人材として引き続き持続可能な育成を行うとともに、ボランティアの活動状況を把握したうえで、支援の工夫を行う必要がある。

●中期的な視点に立ち生涯学習ボランティア育成講座を実施し、区単位で地域や学校を核として活動する生涯学習ボランティアの育成と活動の場の支援を行っていく。また、生涯学習ボランティアバンクの周知を図るとともに、ボランティア活動の実態に合わせた支援方法を検討していく。

事業2 地域活動を担う人材の育成

指標1	地域コミュニティ活動の活性化を支援する事業で学んだ成果を今後を生かしたいと回答した割合(%)						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標	前年度以上		前年度以上	前年度以上	前年度以上	90	
進捗状況	80	86.1					

○コロナ禍においての「公民館講座の実施基準」を作成し、92講座を実施した。地域交流を図りながら地域課題への意識啓発等に取り組むことで、地域に資する活動を実践する人材が育つために不可欠な、地域づくりを推進することができた。

9 地域と学校・社会教育施設が協働する教育の推進

9-1 地域と共にある学校づくりの推進

事業の進捗平均	4.0
---------	-----

【視点3】

地域と一体となった学校づくりを進めます。

事業1 コミュニティ・スクール推進事業

指標1	学校運営協議会の設置中学校区数 ※()内は学校数						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標	前年度以上		前年度以上	前年度以上	前年度以上	90	
進捗状況	-	4(12)	8(22)	56(165)	56(165)	56(165)	
指標2	制度が機能していると回答した協議会の割合(%)						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標	前年度以上		前年度以上	前年度以上	前年度以上	90	
進捗状況	-	88					

○モデル校では、保護者、地域の方々や学校が育てたい子どもの姿を共有し、学校教育ビジョンを練り上げることができた。また、課題の共有を図り、互いに熟慮し、解決に向けた方策を議論し、子どもを中心に協働していく機運を高める動機付けとなった。

●令和4年度の全校設置に向け、全ての学校が円滑にコミュニティ・スクールを導入できるよう、令和2年度に実践した12校の課題等を令和3年度のモデル校と共有するほか、他の学校へも情報を広く伝えていく。また、同様に地域にも情報を発信し、制度の周知を図る。

事業2 地域と学校パートナーシップ事業

指標1	1校あたりの学校支援ボランティア延べ人数						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標	前年度以上		前年度以上	前年度以上	前年度以上	90	
進捗状況	1,989	1,858					
指標2	市立高校生インターンシップ受け入れ企業数						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標	前年度以上		前年度以上	前年度以上	前年度以上	90	
進捗状況	22	11					

○各校では、市教育委員会が作成した感染症対策等に関するガイドラインを基にし、無理のない形で地域と連携・協働した取組が行われた。教職員や地域住民、関係者が配慮や工夫をしながら取組を進めたことで、ボランティア延べ人数指標を上回った。

○「インターンシップ」については感染症対策のため、企業訪問ではなく、企業担当者の来校による実施であったが、生徒からは「自分の将来について考えるよい機会になった」などの感想が寄せられた。

10 学びのセーフティネットの構築に向けた取組の推進

10-1 保護者や地域と連携した安心安全な学校づくりの推進

事業の進捗平均
2.5

【視点4】

誰もが安心して学べる環境づくりを進めます。

事業1	地域見守り活動支援事業						
指標1	子ども見守り隊を組織し、見守り活動を行っている学校の割合(%)						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		100	100	100	100	100	
進捗状況	100	100					
指標2	登下校時における防犯対策に関する「地域の連携の場」を開催した学校の割合(%)						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	1
指標目標		100	100	100	100	100	
進捗状況	100	34					

○令和2年度も全小中学校で子ども見守り隊を組織し、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら活動を進めた。登下校時における防犯対策に関する「地域の連携の場」については、会議は無理のない範囲で実施するよう各校に通知したため、開催校が減少した。

11 学校教育・生涯学習環境の基盤づくり

11-2 市民の多様な学習に応じた学習環境の整備

事業の進捗平均
2.0

【視点4】

誰もが安心して学べる環境づくりを進めます。

事業2	図書館サービス事業						
指標1	市民一人当たりの図書館資料(雑誌、AVを含む)貸出点数						R2進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	2
指標目標		5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	
進捗状況	5.4	4.5					

○緊急事態宣言を受け臨時休館をしたが、児童生徒向けの読書・学習支援サイトをホームページで紹介し、情報を提供した。開館後も、ホームページでの情報提供や配本車の運行を継続したほか、貸出冊数・期間を拡大するなど、図書館資料の効果的な提供に努めた。

12 市民に信頼される教育関係職員の育成

12-1 教育関係職員の研修プログラムの充実

事業の進捗平均
3.5

【視点5】

市民に信頼される、魅力ある教育関係職員の育成に努めます。

事業1	教育関係職員の研修プログラムの一層の充実						
指標1	各研修講座における参加者の満足度(%)						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	2
指標目標		90	90	90	90	90	
進捗状況	89	79.4					
指標2	各研修講座アンケートで「今後に生かすことができる」と回答した参加者の割合(%)						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		90	90	90	90	90	
進捗状況	89	90.5					

○新型コロナウイルスの影響により、研修の日数短縮や内容の見直し、定員の削減、複数の研修室での分散開催、オンラインによる研修、資料のみの配布など、当初計画を大きく変更し、実施可能な計画に再編成を行った。

●GIGAスクール構想の加速など大きく変化する教育ICT環境の有効活用も含め、最良な研修の実施方法を見極め、充実を図っていく。

事業2 「学・社・民の融合」に関する研修の推進

指標1	地域と学校パートナーシップ事業研修会参加者理解度(%)						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		95	95	95	95	95	
進捗状況	95	96.0					
指標2	子どもふれあいスクール研修会参加者理解度(%)						R2進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		98	98	98	98	98	
進捗状況	98	98.5					

○年度の前半は研修会が開催できない状況だったため、事業通信の発行や学校訪問などの形で各校へのサポートを行った。また、全体研修会では、グループワーク・情報交換は行わず、説明・伝達を中心としたため、「実感を伴う理解」を促すことが難しかった。

●令和4年度の学校運営協議会制度(コミュニティ・スクール)導入に向け、学校の教職員、ふれあいスクール運営主任、社会教育施設の職員などを対象にした研修の内容を工夫していく。あわせて、関係課(教育総務課、生涯学習センターなど)と連携し、地域コミュニティ団体やPTA関係者、一般市民への事業の周知に一層、力を入れていく。

<事業の進捗状況に係る変更点・修正点について>

- ・「指標」の表中にある「現状」とは、第4期実施計画策定段階において、指標目標の設定根拠としての現状値を示しています(第4期実施計画本冊の数値を転記)。
- ただし、指標目標が「前年度を上回る」「前年度の実績を踏まえて毎年度設定」等の指標については、R1(令和元年度末時点)の値として変更し、変更した値が分かるように「現状」を「R1」として示しています。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響を受け、状況に応じた適切な取組がなされるよう、令和2年度以降の指標目標を修正した事業があります。(※上記内容は、令和2年11月の第46回教育ビジョン推進委員会において承認された内容です。)

3 教育ビジョン推進委員からの主な質問・意見・要望と教育委員会の対応

第47回新潟市教育ビジョン推進委員会において、推進委員からいただいた主な質問・意見・要望と、それに対する教育委員会の回答は次のとおりです。重点施策である「視点1～視点5」に該当する一部を紹介します。

施策1-1「家庭学習習慣の定着」

○小学校4年生と小学校6年生について、家庭学習時間の割合が下がっています。中学校については上がっています。その要因についてどのようにお考えでしょうか。

⇒小学生については、休校中あるいはコロナ禍の影響などで、ゲームなどをする時間が増えてしまい、その結果として家庭学習の習慣、定着が遅れてしまったのではないかと推測しています。一方、中学生については、逆に学習に向かう時間が増えた結果と推測しています。

施策1-1「アフタースクール学習支援事業」「学習支援ボランティア派遣事業」

○アフタースクールの中には学習支援員、学習支援ボランティアの中には学習指導員というものがありますが、この学習支援員と学習指導員の違いはどのようなことでしょうか。

⇒アフタースクールにおける学習支援員というのは、中学校の放課後の指導を行う教員OBなどの皆さんのことです。また学習支援ボランティアというのは、教員を目指す学生から、ボランティアとして授業の補助などに入らせていただくもので、その中の学習指導員というのは、昨年1年間限定で、新型コロナウイルス感染症対応のために、いろいろな授業の補助などに入ってもらったものです。学生が入ったり、地域の人が入ったり、メンバーとしては重なる場合もありました。

施策1-2「キャリア教育推進事業」

○コロナ禍によって世の中が大きく変わり、既存の職業がどんどんなくなっていく可能性があります。職場体験などで既存の職業だけでなく、若い人が新しいことを始めて成果をあげていると聞いていますので、自由な探索をしつつ、将来を歩んでいくようなスタイルについて、伝えられたらよいのではないのでしょうか。

⇒職場体験やインターンシップでは、これまで市内あるいは地域の会社などにご協力いただきました。ご指摘いただいたように職業も多様化していますので、ベンチャー企業であったり、あるいは若者が起業したりという形で、例えば学生が起業してお店を持っていることが報道されているくらいです。多様なキャリア、多様な職業等について、今後体験できるように学

校に情報を提供できると良いのだらうと思います。

施策3-2「外国語教育支援事業」

○指標2・3にある、外国語の学習が分かる肯定的評価の割合について、指標3では78.6パーセントの中学生が肯定的に回答しています。一方で、学習実態調査の結果から、新潟市の場合には、平均が高いわけではありません。前者はALTとか会話的なこと、後者はテスト的なことであることは分かるのですが、今後の英語教育の支援について、お考えがあれば教えてください。

⇒実際に分かるという自己評価と、テストなどでできるというものとは乖離があるというのは事実かもしれません。そして、新潟市の傾向として全体的に外国の方に積極的に話しかけようとする、コミュニケーションという点では、やや奥ゆかしい面があるかと思っています。

今後の英語、小学校の外国語教育については、加配教員として外国語専科の方も学校に在籍しており、その方を中心とした研修などを行ってきました。その結果、外国語専科の方に頼り切ってしまうというデメリットもあります。

今後、担任を含めた先生方を対象にした外国語の研修なども増やしていく必要があると感じており、最新の情報、評価の仕方、授業スタイルのことなど、情報を発信していきたいと考えています。

施策3-3「学校教育情報化推進事業」

○教員の方々が有効に活用していくための教育・研修等、実施計画の評価の中から読み取ると、いろいろな課題が改めて見え始めてきているのではないかと考えています。その辺の課題について、聞かせていただけますでしょうか。

⇒GIGA スクール構想が始まったばかりで、課題が見えてきづらい面もありますが、現段階での課題は、先生方あるいは学校による活用の温度差や技術差が課題になっていると思います。その点を埋めるべく、研修を行ったり、好事例を紹介したり、ホームページで資料等を発信したりすることで、先生方が授業の中で当たり前のようにタブレットを用いた授業を自信をもって展開できるようにしていかなければならないと考えています。

施策7-1「家庭教育振興事業」「子育て支援事業」

○家庭教育振興事業の中のゆりかご学級（産後すぐの子ども、親御さんを対象にした事業）についてですが、情報をもっていない人はどうやって申し込めばよいのでしょうか。募集情報にアクセスするまで非常に分かりにくい点があるようなので、子育てを始めようという方を対象

にしているわけですから、情報の取り方をどう考えているかお聞きしたいと思います。

⇒基本的に、ホームページに出したり、各公民館でチラシを作ったりというご案内はしているのですが、ホームページを見ない方もいらっしゃいますし、公民館のチラシでは、必要とされる方に届かないという問題も出てくるかと思えます。

子育て支援は子育て不安を解消するための事業ですので、情報の出し方について公民館で再度検討していきたいと思えます。

施策8-1「現代的課題を学ぶ公民館事業と学習成果を発表する場の提供」

○人生100年時代を見据えた今、ライフシフトという考え方が出始めてきているのですが、公民館では現代的な課題について、学び直しの時間をとれるような講座を開設しているのかについてお聞きします。

⇒現代的課題について、各公民館では、若者の異業種交流という講座であったり、支え合いを勉強していく講座などを開催していたりします。具体的には、東区の公民館では、お互いに助けあうということについて研究していく講座ですとか、いわゆる男女の差別をなくしていく講座等があります。これらの内容は、各公民館が企画の段階から内容を練り、必要性を踏まえて開設し、取り組んでいるところです。

施策9-1「コミュニティ・スクール推進事業」

○学校評議員会と学校運営協議会の違いについて調べてみたのですが、学校評議員会を学校運営協議会に切り替えていくという形の理解でよろしいでしょうか。

また、学校評議員会というのは、実際に新潟市の小中学校の中で、ほとんどが設置されていたものなのでしょうか。

⇒コミュニティ・スクールの推進にあたって、学校運営協議会を新たに設置することになっていきます。学校評議員会は、学校運営に関する評価を行っていた組織になりますが、学校運営協議会では、評価に加え、学校教育ビジョンの承認も含むということで、役割が増えることになります。今後は、評議員会は協議会に吸収され、1つの形になるというようなイメージを持っていただければと思います。

施策10-1「地域見守り活動支援事業」

○以前は、専用のジャンパーがあったり、帽子があったり、子どもの見守りを全市でやっているということが非常に意識されていたと思えます。ジャンパー類の提供がなくなって、地域見守り活動という全市的な取組なのだという辺りが周知されなくなってきているのではないか

という気がします。

コロナにより、各学校で見守りをしてくださっている方の集まる会が減っていたと思うのですが、新潟市として地域見守りに力を入れているのだと広報するだとか、地域見守りの方のご協力に対するお礼や感謝をする機会を設定することによって、取組が変わってくるし、新しい方が増えてくれるのではないかと思います。

⇒以前はセーフティスタッフという、ながらパトロールのような形で、ジャンパーをお配りしていた時期もありましたが、現在は地域の子どもは地域で守るという気風が高まってきたというところから、現在の形に切り替えてきているところです。

また、市教委としてお礼や感謝をお伝えするという場面がなかなかなく、申し訳ないと思っ
ていますが、各学校を通して、ご協力いただいた方にはお礼や感謝の気持ちを伝えさせていた
だければと思っています。

登録していただいている人数は、西区の事件以降、年々増えてきてはいますが、高齢化が進
み、実際に立っていただく機会が少なくなったという課題も見えてきています。大事な活動で
ありますので、ご意見も参考にしながら、今後の取組みを考えていきたいと思ひます。

参考資料 新潟市教育ビジョン推進委員会 令和2年度 進捗状況評価経過

No.	開催会議等	開催年月日	協議内容等
1	第46回推進委員会	令和2年 11月17日(火)	○令和2年度 進捗状況中間報告について ・新型コロナウイルス感染症等による指標目標の修正について ・指標の再検討について
2	第47回推進委員会	令和3年 6月7日(月)	○令和2年度 進捗状況最終評価について

新潟市教育ビジョン推進委員会（第8期）委員名簿

任期：令和2年4月1日～令和4年3月31日

(50音順)

No.	氏名	所属
1	小川 崇	新潟市社会教育委員会議副議長 新潟中央短期大学幼児教育科教授
2	鏡 十代栄	公募委員
3	熊谷いみ子	前新潟県立生涯学習推進センター学習相談員
4	小見 直樹	新潟市小中学校PTA連合会会長
5	齊藤 裕子	新潟市小学校長会・結小学校長
6	佐藤 朗子	新潟青陵大学福祉心理学部教授
7	佐藤 靖子	新潟市中学校長会・西川中学校長
8	松井 賢二	新潟大学教育学部教授